

地域のみなさまへ

～ ママたちからの発信！ ～

当日配布資料

行政について、私たちこんなことを感じています

- ・事務的な対応や、心ない行政の対応に傷つく
- ・「担当者」をなかなか信頼できない…
- ・サービス申請の前に
「相談」しなくてはならない
- ・行政の敷居が高く感じる
- ・公共施設や交通が、子連れで
出かけにくいハードになっている
- ・土日は家庭で…と決め付けないで
- ・“公平な支援”って？多様なニーズ
への対応は？
- ・私たちの「声」、どのように
吸収してくれるの？
- ・子どもを預ける手続きが大変

こんなサービス・支援考えて

- ・夜間の市民講座は参加できない。昼間にも開催して欲しい
- ・いろんなサービスあるけど、金銭面での負担が心配…
- ・ひとり親支援の充実！「就職活動」や「働いている親」のための支援はあっても、そうでない人も支援は欲しい。疎外感を感じる
- ・親が病気になったときの子どものフォローや支援サービスなど、安心できる体制をつくってほしい
- ・軽度発達障害児のための手帳とショートステイ、グループホームの設立、就労支援の充実を
- ・子どもがパニックになった後、疲れきった親のケアがない
- ・一時保育が16時までや、2時間の時間制限があり、役に立たない
- ・（突然でも対応してくれる）保育のサポートがほしい
- ・生活のなかで母親だけでは大変な時（夕飯時など）手伝いが欲しい
- ・家庭にもメンタルフレンドのボランティアを派遣してほしい

港区では、2006年4月以降、
各家庭への子育て家族支援者派遣サービスが始まります。
※みなとキッズサポートセンター

日々、感じてました…

- ・子どもを育てるときのにぎやかさは目をつむってほしい
- ・子どもを預けることに対しての偏見がありすぎる
- ・子どもが泣いたりぐずったりしているとき、通りがかりの人から「親が悪い」という視線を感じる。親の顔を覗き込まれると悲しい
- ・階下のひとから「2歳の子どもが10時に起きているなんて、しつけができていない！」と言われた。その日はたまたま昼寝が長引いて寝付けなかったんだけど…
- ・子どもとの外出や、家族で過ごすことの理解が低い
- ・通学路ですれ違う通勤の人に迷惑にならないようにとても気を遣う（相手も急いでいるから仕方ないけど…）
- ・子どもの安全を守る意識が低い（地域も母親自身も…）
- ・地域には、18時以降はファミリータイム！という意識がない
- ・子どもが怪我をすると、虐待だと思われる（または、虐待だと思われるのではと、不安）
- ・子どもに冷たいなあ…と感じることが少なくない（エレベーター・電車・公園・トイレなど）
- ・子どもが少なくなって、大人にも余裕がなくて、子どもに「慣れていない」人が多い
- ・全体的に人間関係が希薄
- ・母親が自分を責めてしまう環境にある
- ・世の中物騒になって、のびのび育つのが難しい（子どもの力を奪う環境）

母親になると…

- ・母親は、自分のために使える自由な時間がほとんどない
- ・仕事したくても、小さい子どもを育てながらだと受けてもらえにくい
- ・子どもができた途端に母親としての役割がのしかかってきて、責任（しつけ・育て方）を全て押し付けられているように感じる
- ・「母親」としてのかかわりばかりで、一人の人間として見てもらえなくなる気がする
- ・悩みがなくても不安・ストレスは身近

でも実は…

- ・群れた母子は意外とこわい。排他的態度になっている気がする
- ・子どもを連れていないとき、自分も子連れに対して冷たい視線を投げていることがある…ので、子どものいない人の気持ちもわかる

地域の皆さん、私たちこんなことを感じています

情報、欲しい！

- ・地域に根ざしたファミリー情報が少ない
- ・子どもと一緒にいられる気軽なサークルってどこにあるの？
- ・母乳育児ってどのくらい重要ななの？

父親も仕事と育児の両立っていうけど…？

- ・子どもともっとかかわりたいと思っている父親も多い
- ・子どもとどう接していいかわからない父親へのサポートの機会が少ない
- ・父親同士の交流の場が少ない
- ・「将来子育てに積極的に参加したい」と思っている、そのような条件を優先して就職活動するのは難しい（男子学生：就職活動中）
- ・男性に「育児休暇」を保障している企業がほとんどない（男子学生：就職活動中）
- ・父親も家庭・社会の一員という意識が低い

ありがとう☆

- ・「大変ね、よくやってるね」そんな何気ない言葉だけで支えられる
- ・子ども2人を連れていっているとき「大変ね、でもあと少しよ」と声を掛けてくれた通りすがりのおばさんにホッとした！
- ・疲れたり、落ち込んだりした時に「あの人も頑張っているんだ」と思い出せる人がいるのは心強い
- ・ちょっとした親切がとてもうれしい

知って欲しい！地域には…

いろんな家庭があって、いろんな母親がいるよ！

- ・このような場（グループ活動や市民講座）に参加している人は、それなりにパワーがある母親。パワーのない、孤立した母親も地域にはいっぱいいる
- ・365 日母親をやる必要はない。そう思えたほうが、母親は頑張れるし、選択肢も広がっていく
- ・小さいころ、自分が親から優しくされていないのに、子どもに優しくするのはすごくしんどい
- ・「バッドマザーの神話」（ジェーン・スウィガート著：1995 年）を読んでほしい
- ・家族の背景や家庭環境（ひとり親など）だけでレッテルを貼られると、孤独になる
- ・ふたごが小さいころは、どこにも出かけられず、ひきこもっているしかなかった
- ・地方から出てきた人は孤独かも…
- ・距離のとり方が苦手な人もいる

いろんな子どもがいるよ！

- ・子どもにも人権と未来があることを意識してほしい
- ・子どもの状況やハンディ（障害など）をなかなかわかってもらえない（学校も）
- ・軽度発達障害など、いろいろな人・子どもがいることを理解してほしい
- ・SOS を発信している子どももいる。母親への支援なくして子どもは救えない

いろんなひとがいるよ！

そんな「地域」で…

みんなで「子育て」考えよう！

- ・社会全体が「子どもが育つ」ということをもっと認識してほしい
- ・子育ては母親だけに関わるのではなく「共育」です
- ・籍やカタチにこだわらず、子どもを産みたい女性を支える環境になってほしい
- ・社会全体がパパである（男性とは限らず、企業だったり…）
- ・子どものしつけは、家庭と地域で。

私たちも地域の一員！地域に貢献します

例えば…

わたしは学生！…こんなこと思いました

- ・「自分の子」というだけで無条件で愛せるの？
- ・子育てをする上での「常識」はやっぱり自分の親から学ぶの？
- ・知らない土地で親になったとき、どこにどのような支援があるのか…？心配。



私たちはこんなことができます♪

学生に、仕事をするということ、子育てをするということの“実態”を伝えられる

「地域子育て支援します」って言うけど…

今の「子育て支援」って…

- ・「支援が必要なこと」の思い込みや認識がズレている感じる
- ・手を出す支援ではなく、見守ってくれる環境・大人の余裕がほしい
- ・支援者の“質”って？
- ・持論の押し売りは“怖い”。自分が「ダメ」な気になる
- ・「大きなお世話」じゃない支援がほしい
- ・経済的に困難な家庭は、必要でも託児やシッターを活用するのは難しく、負担が大きい
- ・どうしたらいいのかわからない時に「どうしたの」の聞かれても困る。どうしてこうなっているのか、わからないときもある
- ・「べったり」の支援関係はいらない。会いたいときに会える関係が欲しい

わたしたちが欲しいのは…

地域にあるといいな☆

＜“場”編＞

- ・いつでも気軽に行けて、子どもが遊べてママが安心してお茶ができる場所がほしい
- ・自然な形で集える場所（はらっぱなど）があれば、高齢者・若者との交流ができそう
- ・どんな母でも、子どもでも受け入れられる居場所があるといい
- ・子連れで集まれる場所がほしい（公共施設・保育用具がある場所・レストランなど）
- ・子どもの成長に合わせて不要になるものを、お互いに提供し合えるリサイクルの場がほしい
- ・生まれてすぐ出かけられるところ
- ・子どもと離れてちょっとホッとしたいときにできる場がほしい

＜ひと、サービス編＞

- ・（買い物などのとき）近所の人の支援がほしい
- ・子どもを預けるのが大変。ちょっと見てもらいたいときに困る
- ・ペアレンティングクラス、ベビークラスを安くやってほしい
- ・未就園期間は、母子密着で息抜きができないので、託児付きの催しがほしい

私たち、子育てグループ活動はじめました

社会参加の場がほしい☆

- ・子どもができて仕事を辞めて感じた「寂しさ」
- ・何かをしたい、という想いがあった
- ・孤立しないで子育てしていくためにも、誰か・何か・社会…と「つながっている」ことが大事
- ・目標（月に1回集まろう！など）をもって活動を続けていくことが「社会参加」となる

仲間づくりしよう☆

- ・子どもや生活背景に関係なく、友達になりたい
- ・いろんな人に、気軽に参加してもらいたい
- ・地域に知り合い・仲間がいると子育てが楽になる
- ・地域のお母さんが自分の持っているものを出せる場づくりをしていきたい

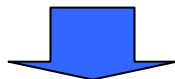
いろんな人とのかかわりのなかで
子どもを育てたい！

安心できる場がある☆

- ・身近な人や地元の友人には言えないことや言いにくいことを、話せて聞いてくれる場がある安心感
- ・それぞれが、自分の感じたことを優先して大切にできる場がある安心感
- ・生きづらさ、息苦しさを吐き出す場があるということ
- ・「自分の問題」について安心して向き合える場がある
- ・仲間がいるという安心感
- ・何を話してもいいという「安全な場」が保障されているということ
- ・いろいろな想いのあることを互いに知り合っていく
- ・受け入れ、認め合う関係が心強さになる

孤立しない子育てがしたい☆

- ・自分だけで育てるのは怖い
- ・孤立しないで子育てをしたい
- ・いろいろな大人や子どものなかで子育てをしたい
- ・話せる・聞けるということで、味方が増える、勇気をもらえる、余裕ができる
- ・場を共有することで、自分の気持ちに気づくことができる
- ・共感してくれる仲間、共有できる時間、分かち合える体験が勇気になる
- ・孤立しないために、価値観や、やりたいことが似ている仲間とグループをつくる
- ・いろいろな想いで子育てをしているお母さんがいることを知ってほしい
- ・多様な人とのかかわりのなかで子どもと向き合えるという環境（地域）づくりについて考えたい



困っています…

①保育

- ・活動に集中したり、心置きなく話ができる環境をつくるために保育が必要
- ・保育の準備をしたくても、調整ができなかったり、予定がたたなかったり…
- ・（安心できる）ボランティアがみつからない

②会場

- ・活動場所がない(メンバーの家を使うと階下から苦情が来る)
- ・子どもと離れたい、一緒に参加したいなど、個々の状況に応じた支援が必要
- ・おもちゃなどを用意しなくてはならない

③参加者

- ・プログラムをたてても、参加者が増えない

④お金のこと

- ・会場費、謝礼、保育費用…

⑤活動を続けていくこと

- ・世代交代

こんなサポートが必要です

◇行政へ…

- ・活動の広報について…ポスター掲示、地域のママたちへの宣伝など、煩雑は手続きが多くて大変

◇地域のかた、学生の皆さまへ…

- ・保育のボランティアに協力して欲しい ・グループのこと、興味をもって欲しい

最後にメッセージ！

つながろう！

- ・学生や地域に「子育て」「グループ」に興味をもってほしい
- ・地域の人にグループのことを知ってもらいたい
- ・「既存のグループ」とのつながりを深めたい
- ・学生ともつながりたい

子育てしやすい地域、子どもがのびのび育つ環境のために…

☆「子育てをささえる地域創り！」を実現しよう☆